

Ⅲ. 主な意見と課題の整理及び総括

1. 外部講師の主な意見

今年度の研修内容、時間等に関し、外部講師(10名中10名)から寄せられた主な意見を整理したものである。

(1)研修目標に見合った研修内容となっていましたか(受講生の印象、講師を担当しての感想を含む)
意見等
研修目標に見合った研修内容になっていた。
受講生は熱心で講師としてもやりがいがあった。
受講生は全員、受講態度は真剣に感じられた。総じてレベルは高く研修内容をほぼ理解するとともに、実践への応用力もそれなりに得られたのではないかと。
同内容の研修が4年目ということもあり、目的に合致した講義が提供できた。受講生に関しては、実務経験者が多いことから、理解も早く、講義はしやすかった。ただ、もう少し受講者数が多いほうが、講師としてもやりがいがある。
樹種特性などの基本知識を持たない受講生にとっては少し難しく感じるのではないかと。受講生の課題に対する取り組みは前向きで好印象だった。
受講生は、熱心に興味深く話を聞いていた。専門的な立場での質問もあり、非常に良い雰囲気の中で話すことができた。
地位による林分の区分を中心に話を構成してなるべく簡潔に資料作成を心がけたが、少し理解しづらかったようだ。森林に対するイメージ、理解に関してこちらの想定とのズレがあったのかもしれないため、基本事項をもう少し繰り返しを入れて丁寧にしても良かった。
最近の傾向だが、施業をするにあたり補助金行政ありきの発想が多く、やむを得ないとはいえ山づくりの感覚が少なく感じられたのは残念だ。国有林と民有林の管理については相当に方向性に違いがあると感じられる。このような研修で双方の参加者が協調して作業に携わるのなら、それぞれの立ち位置に対する理解を組み合わせた協同的な森林管理を考える機会にしてもよいのかもしれない。
研修内容はおおむね目標に沿ったものであった。また、受講生のいずれもが真剣に取り組んでおりの的確な質問が出る等好印象だった。
研修目標、内容どちらももう少し実際山で問題となっている課題などを議題としたり、幅広い分野の議論があってもよかったと思う。受講生、各講師はとても熱心だった。
座学講義資料は昨年度とほぼ同じものを使用したが、3時間という短い時間の中で配付資料のボリュームが多すぎた。一貫作業システム、安全(労働災害)について講義できなかったため、次年度はもう少しコンパクトに資料を改変したい。
現地検討及び演習は同じ個所だったが、昨年に比べエクセルファイルを小区域で計算できるように改良したことは良かった。また、演習時に用いる図面も10mメッシュをかけたものを用意したのも良かった。内容的には伐出から造林に係る作業計画とコスト検討に十分沿ったものだった。
受講生は、初日の座学では講義時間が目いっぱい質問がなかったが、2日目には各班生き活きとし、巡回する過程で何度も質問があった。さらに、他の班との意見交換ができれば、人の輪がもっと大きくなるものと思われる。

(2) 講義時間、実習現地等の設定は適切でしたか
意見等
講義時間、実習現地ともに適切だった。
研修時間に限りがあるため、今回の設定(講義時間、現地実習)で問題ないと思う。研修時間を長くすれば、路網だけではなく作業システムも取り込み、コスト計算なども含めて行うことができるので総合演習になると思うが、そのためにはさらに研修期間を1日延ばす必要がある。
昨年度と比べ、開始時間と終了時間が変更になり、講義時間に影響が出てしまったのは残念である。一方で現地視察を省略したことによって演習の時間を確保できたのは、事前打合せで検討した成果であったと思う。
集合・解散時間の制約があり、余裕がない。集中できるので良いとも考えられるが、前後1時間位あるとなおよい。何かアクシデントがあった場合に対応が難しくなると思える。
雨天だったが、マップや講師の手持ちメモなどが雨に対応できてなかったのが少し難しかった。耐水ペーパーの使用が良いと思う。
雨天のため山へ行けなかったことは残念だったが、その分流通や加工、販売等の現実的な話が詳しくでき、時間はちょうどよかったと思う。
適切だった。
講義時間は適切だった。現地実習はやや時間がタイトに思われたが、進行管理は大変スムーズだった。最終発表はテーマを分けたが、一度に二つのテーマを考えることになった点では、時間が足りなく感じたかもしれない。
研修全部に参加していないが、おおむね良好と思われる。ただ、民国連携に向けた議論にもう少し時間を割いてもよかったのではないかとと思う。
座学の時間は半日でよいと思うが現地検討時間は良かった。次年度は2日目に発表準備も終わらせた方がよいと思う。3日目の発表が最終目的だが、発表者と聞き手の意見交換、質問時間をあと10分程度長くしていただきたい。
エクセルファイルについては、あえて伐出コスト計算の流れを把握できるように工夫した。機械、集材距離などを入力するだけでコスト計算出来るソフトも持っているが、森林総合監理士にとっては勉強にならない。いくつもの選択肢を考えて提案・改善できる人材にしたいという思惑から、今回ので十分かと思う。
(3) その他、お気づきの点や改善点等がありましたらご記入下さい
意見等
各講師の講義、講評内容が重複もしくは違わないように、事前に打ち合わせをした方がよいと思う。
実習での施業計画の立て方の説明をもう少し具体的、明確にする必要があると思えた。受講生からの質問(植栽は考えない、生産林は想定しないなど)に答える形で、求めるものを具体化させていったように思う。ただし、受講生の考えることを限定、誘導するのはよくないので、加減が難しい。基本的な前提条件を明言したほうがよいと思う。

時間があれば、造材指導の時に実際に材を伐れると説明がしやすいと思う。

森林総合監理士の本質である「構想の作成→合意形成→構想の実現」の視点からすると、県・市町村の地域振興策の優良事例を題材に検討したり、条件(開催地域の課題等)を与え構想を策定する等の研修もありではないかと思う。

一つの議題でも幅広い知識が必要なのが森林総合監理士だと思うので、突き詰めていくような議論があれば良いと思う。

2. アンケート結果の概要(ブロック別)

アンケートは受講生全員を対象とし、研修成果の確認と今後の研修運営に役立てることを目的に実施した。本研修に対する理解度、役立ち度、全体の満足度、運営評価について、ブロック別の集計結果をグラフ化し、そのうち、「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」、「研修内容の理解度」、「業務への活用度」、「テーマ設定の満足度」についてはブロックごとに詳細結果を取りまとめた。

なお、ブロックごとにテーマ、カリキュラムなどが多様であるため、ブロック別の結果を示しているが、ブロック間の単純な比較ではなく、ブロックごとの傾向や課題の明確化を意図している。また、今後さらに良い研修にしていくためには、各ブロックで評価の高かった点、改善すべき点について、全ブロックで共有することが非常に重要だと考える。

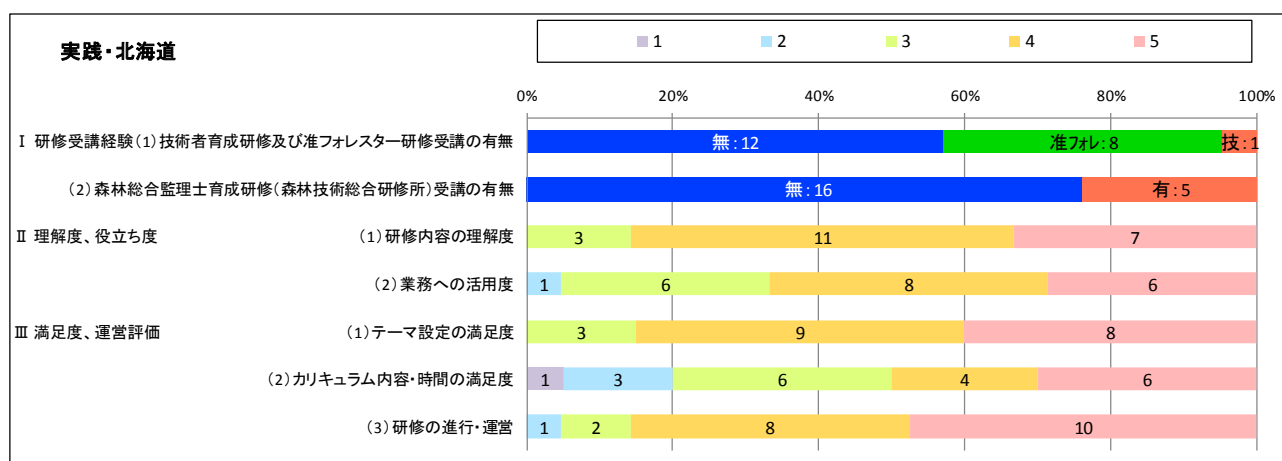
アンケートの回収総数は、修了者 114 人中 114 人(回答率 100%)であった。

アンケートは、「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は 1 (技術者育成研修)、2 (准フォレスター研修)、3 (受講経験なし)、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は 1 (受講経験あり)、2 (受講経験なし)とし、その他の各項目は 5 段階評価で「研修内容の理解度」は 1 (理解できなかった)から 5 (理解できた)まで、「業務への活用度」は 1 (活用できない)から 5 (活用できる)まで、「テーマ設定の満足度」と「カリキュラム内容・時間の満足度」は 1 (満足度が低い)から 5 (満足度が高い)まで、「研修の進行・運営」は 1 (良くなかった)から 5 (良かった)までの評価で実施した。

なお、「受講生の技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」の状況は、各ブロックで異なっており(以下、(1)~(7)のブロック毎を参照)、各受講生の評価を判断する上でも参考にした。

参考として、昨年度からテーマ及び講師を変更したのは、北海道、東北、中部、近畿中国、四国だった。また、全ブロックとも 2 泊 3 日で実施した。

(1)北海道ブロック



①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が 43%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が 24%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は 5 と 4 の回答で 86%を占め、昨年度(H28 : 95%)より若干減ったものの

「机上での検討後、現地での確認は理解が深まる」、「更新から伐採まで広く学べて有意義だった」、「班ごとの考えの違いが興味深かった」などのコメントが寄せられ、現地検討や班内での意見交換を経て理解を深めていった様子が見えてくる。

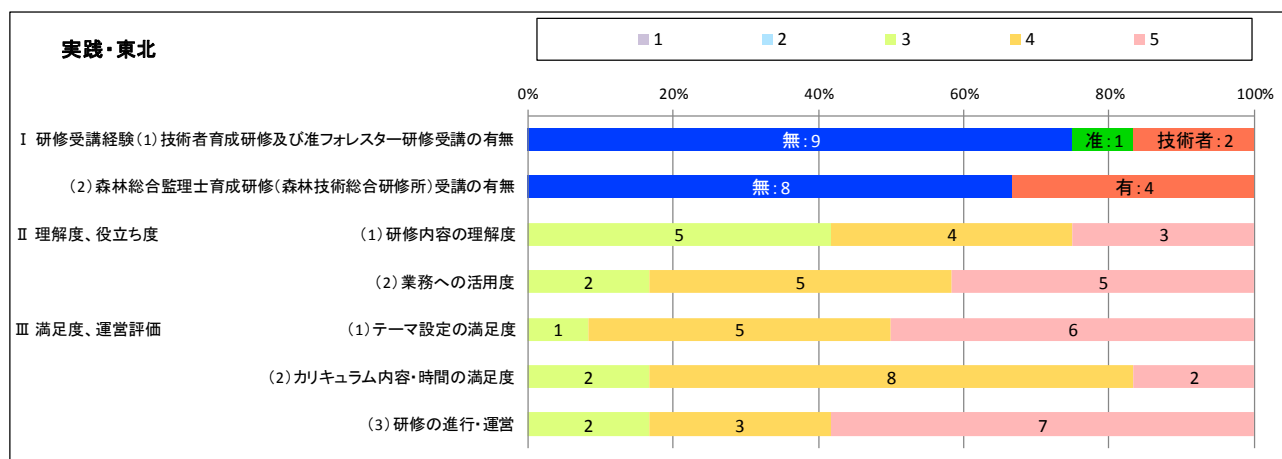
③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が67%と、昨年度(H28:79%)より若干減った。3以下を回答したなかには、「森林総合監理士の試験に受かってから活用したい」といったコメントもあったが、4以上の回答からは「森林所有者などに説明する場面で活用できる」、「研修内容の全てが活用できる」、「民有林支援の実践について学べた」といった評価の高いコメントも寄せられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が85%と昨年度(H28:79%)より割合が増え、「低コスト施業は民国共通の課題だと思う」、「これから求められるテーマだと思う」、「伐採再生林の現場が増えるので良い」といったコメントが寄せられ、今後必要とされるテーマ設定が高い満足度につながったと考えられる。

(2)東北ブロック



①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が25%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が33%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が58%で、昨年度(H28:78%)より割合が低下し、全ブロックの中で最も低い回答となったが、「作業道の作設に係る業務経験がなかったため難しい部分もあった」、「林道に携わった事がないので曲線の設計は難しいと感じた」という意見から、自身の知識不足が理解度に影響されたと思われる。しかしながら、「森林作業道の基礎について再確認できた」、「現地で実際に見れたことで理解が高まった」、「理想的な道を見られて大変勉強になった」などの意見も寄せられ、おおむね研修内容が理解されたことがうかがえる。

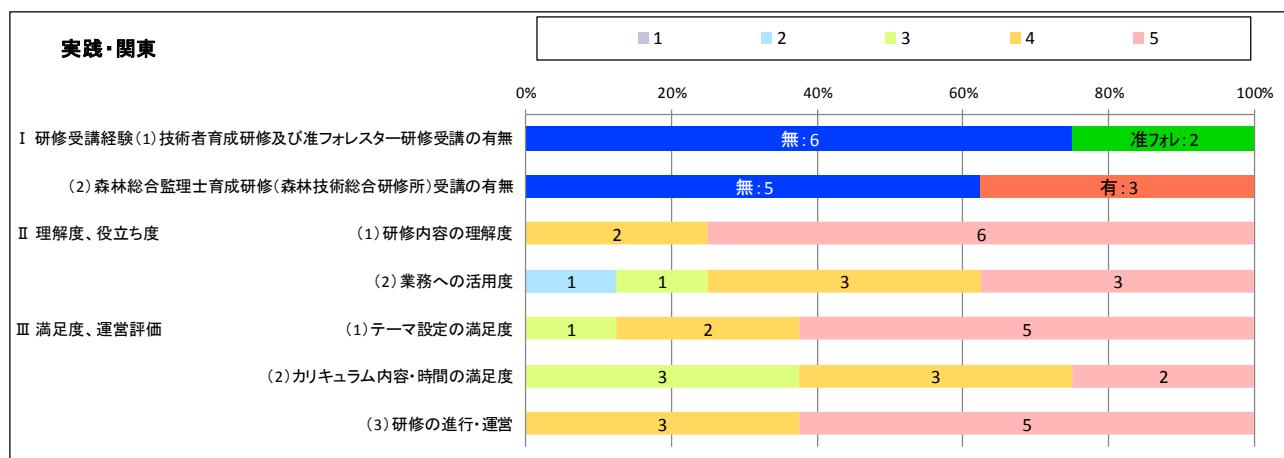
③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が83%で、昨年度(H28:50%)より割合が高く、「作業道作設の路線選定について活用できる」、「施業の前提になるので参考になる」、「事業の審査等で生かしたい」など、積極的に活用していきたいとの意見が多くみられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が92%で、全ブロックを通して最も高かった。「木材搬出の際の重要なポイントとなる」、「図面だけで線形を決められないとよく分かった」、「強固な作業道の作り方が分かった」など今後の自身の活動に生かせる意見が寄せられた。

(3)関東ブロック



①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

関東ブロックは受講生が8名と少なかったが、「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が25%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が38%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5の回答だけで75%、4の回答を加えると100%となった。昨年度は5の回答はなかったものの4の回答が83%を占めたことと比較すると、理解度が増したと言えるし、全ブロックの中でも抜き出ている。「講義のポイントが絞られていて、限られた時間ではあるものの、わかりやすい講義だった」などの意見も聞かれ、講義等の改善も影響したものと思われる。

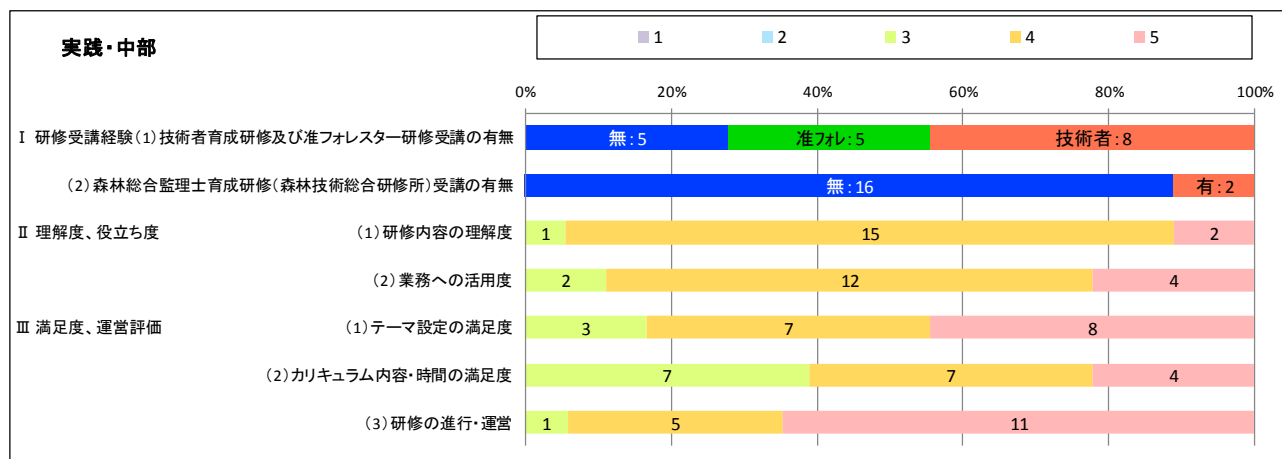
③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が75%で、昨年度(H28:42%)より大幅に高まった。「広葉樹林化の説明時に参考になる」、「皆伐跡地の更新確認に活用」との意見が寄せられ、広葉樹林化への関心の高まりがうかがえる。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が88%で、昨年度(H28:58%)よりこれも大幅に高まった。「広葉樹林化は県内でも課題に」「公益的機能が強い森林をつくるうえで必要な知識」などのコメントが寄せられた。

(4)中部ブロック



①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が72%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が11%で、森林総合監理士関連研修の受講経験者が全体の83%を占め、全ブロックを通して最も高かった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が94%を占め、昨年度(H28:57%)より割合が大幅に高くなった。昨年と同様「実務経験がもっと必要と感じた」といった経験不足を述べるコメントもあったが、「索道の設計は初めてで難しかったがよく理解できた」、「架線はやったことないが参考になった」といったコメントから、架線未経験者であっても理解を深めることができたことがうかがえる。

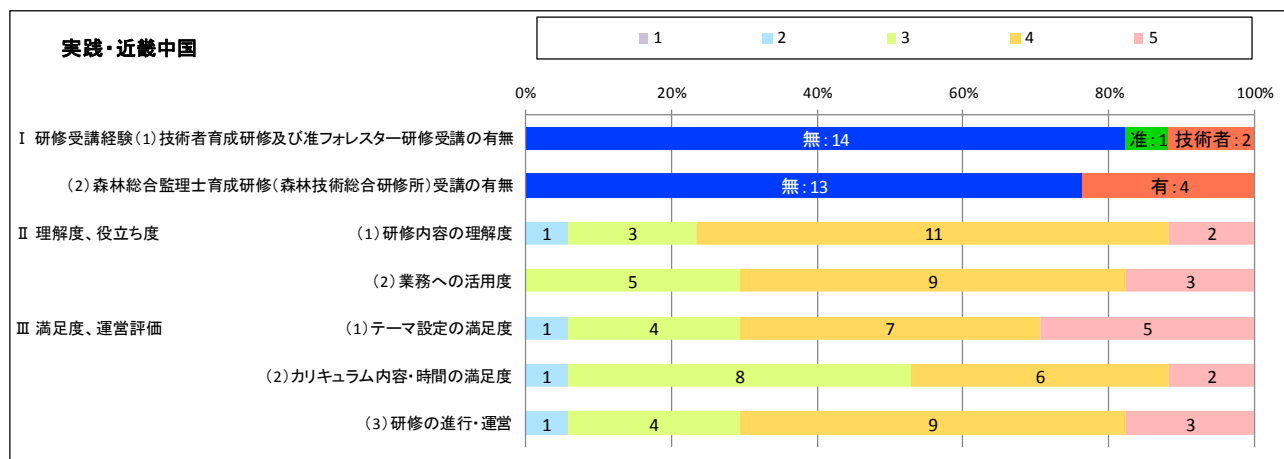
③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が89%を占め、昨年度(H28:57%)より割合が高く、他ブロックと比べて高い割合だった。理解度と同様、「これからの普及に役立つ」、「今後勉強が必要だがアドバイスできるようになりたい」といった、今後自県で活動を行ううえで、前向きな意見が多数寄せられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が83%で昨年と同様高評価だった。「車両系について考える機会が多いが架線を考える研修は良い」、「今後取組んでいくのでちょうど良かった」、「ニーズが大きいのでとても良かった」などのコメントが多く寄せられ、必要とされているテーマ・ニーズだったことがうかがえる。

(5)近畿中国ブロック



①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が 18%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が 24%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は 5 と 4 の回答が 76%で、「一定の面積をかたまりとしたゾーニングの分け方が理解できた」、「地位によって施業を変える事が大切」、「現地での研修が分かりやすかった」などのコメントが寄せられ、実際に体験や見聞きすることで理解が深まったと思われる。

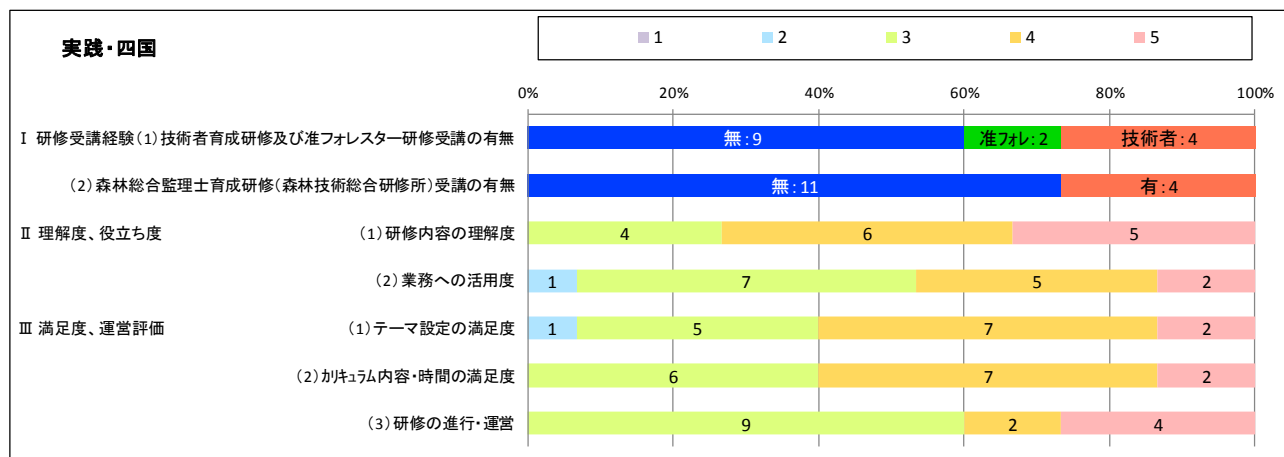
③業務への活用度

「業務への活用度」は 5 と 4 の回答が 71%で、「ゾーニング方法に様々な意見があり参考になった」、「立場に応じた対応に活用できる」、「市町村森林整備計画の作成指導に役立てたい」など、研修で得た知識等を今後に向けての活用に前向きなコメントが多くみられた。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は 5 と 4 の回答が 71%で、「自分が学びたいテーマと合致していた」、「実際に行うことで有益なテーマだった」、「難しい課題ではあるが、必要な課題であると思う」など、今必要とされている知識・技術テーマと評価された意見も多く、また、「路網整備や搬出方法の色々な事例を見たい」、「獣害対策を考慮したゾーニングを学びたい」など、今後に得たい知識として積極的な意見も寄せられた。

(6)四国ブロック



①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が40%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が27%だった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が73%と昨年度(H28:77%)とほぼ同じ割合だった。「具体的な事例・取組を知ることができた」、「実践的な研修内容で勉強になった」といったコメントが寄せられた。

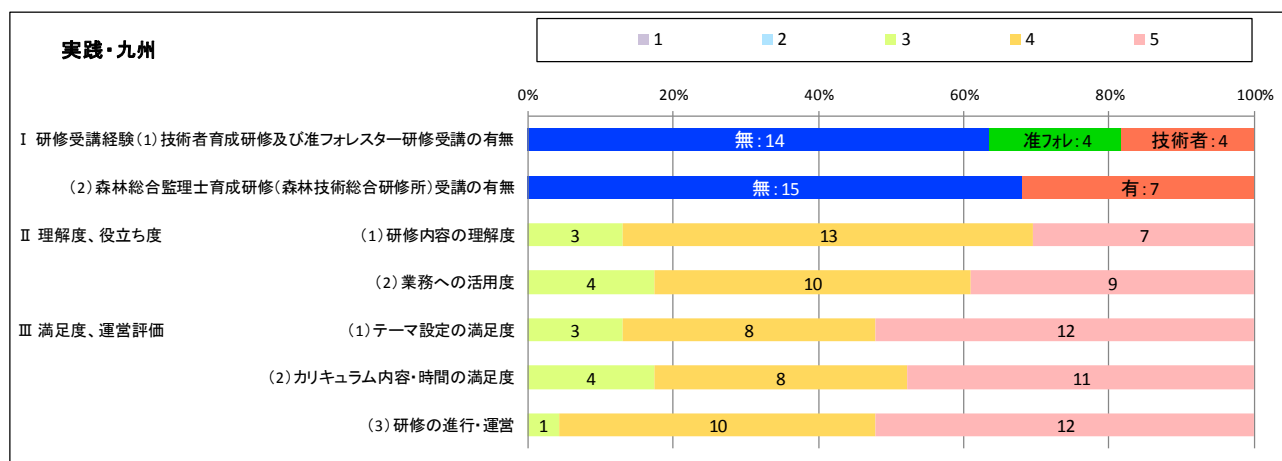
③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が47%で、昨年度(H28:92%)より割合が低下し、他のブロックと比較しても低かった。3以下の回答では「専門知識が少ないため、身につける必要があると感じた」といった自身の勉強不足を述べる意見があったが、一方4以上の回答からは「施業団地を計画するうえで相手方に提案する要素として活用できる」、「活動をする際の考え方、気持ちのあり方等の参考になる」といったコメントも寄せられた。

④テーマ設定の満足度

今年度はテーマを変更したが「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が60%と昨年度(H28:100%)より割合が低くなった。「テーマが大きすぎて作業路とのギャップで迷った」といった戸惑いのコメントも寄せられたが、4以上のコメントからも「当初研修テーマに戸惑ったが結果は良かったと感じた」、「当初漠然的に感じたがそれぞれの考え方で切り口を見つけることができた」といったコメントも寄せられ、受講生自身がどのように落とし込んだかによって評価の点数が分かれた結果となったことがうかがえる。

(7)九州ブロック



①技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が36%、「森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無」は受講経験者が32%だった。

H28年度は「技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無」は受講経験者が全体の86%を占めていたことを考えると、受講経験者の比率が大幅に下がった。

②研修内容の理解度

「研修内容の理解度」は5と4の回答が87%を占めて(H28:90%)高かった。「内容がかなり難

しかった」という意見はあったものの、「経験＋講義で習熟度が上がった」、「現在の仕事に直結しているのでよく理解できた」、「作業システムの考え方が参考になった」などのコメントが寄せられた。

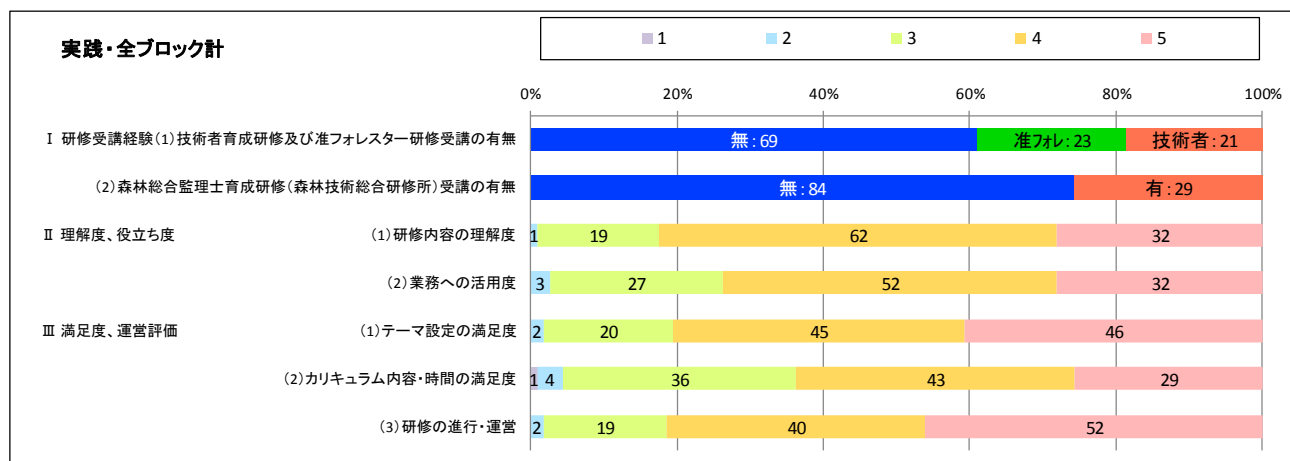
③業務への活用度

「業務への活用度」は5と4の回答が83%と昨年度(H28：100%)より割合が減ったが、3の回答でも「合理的な作業システムに活用できそう」、「得た知識をどう実力に変えられるかによる」とのコメントが寄せられ、実践的な研修内容が評価されたと考えられる。

④テーマ設定の満足度

「テーマ設定の満足度」は5と4の回答が87%だった。「作業計画とコストの検討が実践的だった」、「森林所有者に直結する内容で良かった」「作業日報等勉強になった」「森林施業プランナーと一緒に内容が深まりそう」などのコメントが寄せられ、すぐに実践できるテーマ・内容だったことが高評価につながったと推察される。

3. アンケート結果の概要(全体)



(1) 技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無

技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無は各ブロックさまざまだが、中部は森林総合監理士関連の研修受講経験者が多く、近畿中国は未受講者が約6割を占めた。全体として、准フォレスター23名(20%)、技術者育成研修修了者21名(19%)、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)29名(26%)、森林総合監理士関連の研修未受講者40名(35%)となった。

(2) 研修内容の理解度、業務への活用度、テーマ設定の満足度

実践研修全体の評価として、全ブロックの計をみると、5と4の回答は、「研修内容の理解度」82%(H28:83%)、「業務への活用度」74%(H28:72%)、「テーマ設定の満足度」81%(H28:83%)と昨年度とほぼ変わらない割合であったが、ブロックごとでは、「研修内容の理解度」58~100%(H28:57~95%)、「業務への活用度」47~89%(H28:42~100%)、「テーマ設定の満足度」60~92%(H28:58~100%)(※2.アンケート結果の概要(ブロック別)参照)と、昨年と同様ブロックによってバラつきがあった。

「研修内容の理解度」は、全ブロックを通して「実践的な研修で理解が深まった」、「机上での検討後、現地での確認は理解できた」というコメントが寄せられ、現地実習と講義によって理解が深められたことがうかがえる。また、「内容については理解できたが、今後の課題も見つかった」といった意見も寄せられ、受講生自身の今後の課題も見つかった内容になっていることもうかがえる。特に関東が高い評価であった。

「業務への活用度」は、「森林所有者などに説明する場面で活用できる」、「プランナーと意見を出し合って提案したい」など肯定的な意見が多く寄せられた。一方、3以下の回答のなかには「専門知識が少ないため、身につける必要がある」、「もっと勉強が必要だ」、「全員が知識を共有していく必要がある」など、自身等の経験・知識不足から慎重な意見も寄せられたが、「自県で利用できないか検討したい」など、新しい知識を得たことがうかがえる前向きな意見も見られ、東北、中部、九州は高い評価であった。

「テーマ設定の満足度」は、「ニーズが大きいのでとても良かった」、「今後ますます重要になる」、「難しい課題であるが、必要な課題であると思う」とおおむね満足度が高い意見が多く、今後森林総合監理士等の活動を行っていくなかで必要なテーマであったことがうかがえる。特に東北は高い評価であった。

森林総合監理士関連の研修未受講者が一定数いたが、全アンケート項目を通して、准フォレスター研修(H23～H25)及び技術者育成研修(H26～H28)、森林総合監理士育成研修(H29)未受講生の研修に対する評価が特に低いということはない。

(3)カリキュラム内容・時間の満足度

「カリキュラム内容・時間」に対する満足度は、5と4の回答で64%を占め昨年度(H28:67%)とほぼ同じであった。ブロックごとで見ると47～83%(H28:39～83%)(※2.アンケート結果の概要(ブロック別)参照)で、昨年同様ブロックによってバラつきがあった。毎年見られる意見だが、5と4の回答が多いブロックも含め、「現地踏査・検討時間(グループ討議)が短い」などのコメントが一定数見られた。限られた時間の中でも多くのことを盛り込みたい傾向があるが、グループ演習や各班の発表は多くの学びにつながることから、受講生が消化不良にならないよう、テーマとカリキュラム内容に見合った時間配分、特に現地踏査時間やグループ演習時間は再検討する必要がある。

(4)研修の進行・運営

「研修の進行・運営」は、5と4の回答で81%(H28:81%)と昨年と同じであったが、ブロックごとで見ると40～100%(H28:61～90%)(※2.アンケート結果の概要(ブロック別)参照)とバラつきがあった。ブロック別では、関東の5の割合が63%、中部5の割合が65%と評価が高く、中部においては、現地実習日が雨天のためスケジュール変更があったものの「雨天だったがスムーズだった」などのコメントも寄せられ、現地実習地を管轄している森林管理署との連絡、連携が取れていたことが高い評価につながったとうかがえる。評価が若干低いブロックは、「日程的につめつめな感じがした」といった、前項目「カリキュラム内容・時間の満足度」にあるように、時間配分の調整に関わる指摘であった。しかしながら、評価が低いブロックも含め、「進行がスムーズだった」という肯定的なコメントが多く寄せられ、当研修は4年目を迎えており、研修の雰囲気づくりなど、森林管理局に蓄積された経験やノウハウが生かされていることがうかがえる。

(5)その他感想、来年に向けての提案など

全ブロックを通して、肯定的な感想として「テキストだけでは得られない現地の様子、講義内容で、とても良かった」、「技術者が集まる場所には発見があると感じた」、「受講生・講師が熱意がある人ばかりで刺激を受けた」などの前向きなコメントが多く寄せられた。また、「国、他県の方の意見が聞けて良かった」、「色々な側面(民有林・国有林)からの考え方、発想等が聞け視野が広がった」といった、都道府県職員、国有林職員等の垣根を越えた交流により本研修が受講生にとって、多くの刺激を受けたことがうかがえる。

来年度以降への提案として、ブロックごとにテーマが違うが、一例として「スイングヤーダやウッドライナーに絞った研修を行ってほしい」、「車両系・架線系どちらをテーマにするのか選択できれば良かった」といった今年度のテーマをさらに絞って深める研修を希望する声が寄せられた。

4. 運営改善報告書の概要

当日運営補助者から研修ごとに作成された運営改善報告書の概要は、以下のとおり。

ブロック	研修テーマ・カリキュラム	講義・演習・現地実習	その他
北海道	特記事項なし。	<ul style="list-style-type: none"> ・現地実習の時間が限られていた。受講生から「もっと現地を見たい」等の意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者数に対して研修会場の広さにゆとりがなく、電気のスイッチを消す、資料配付等の作業をするうえで動線が確保できなかったため、受講者数・関係者数に見合った広さの研修会場を、外部会場も含めて検討が必要。
東北	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートにおいて、カリキュラムに対して「時間が短い」「詰め込まれている」といった意見がいくつか見受けられたため、研修の全体的な講義内容及び時間設定の調整が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討結果の発表の際に、各班の発表図が単体でしか投影されていない。もっと他の班との比較を行えるように、並べた方がいいのではないかという意見が出た。 ・班ごとに同行するサポートスタッフが、実習内容に関して受講生にどこまでアドバイスするか、どこまで教えるかというさじ加減に悩むという意見があった。 	特記事項なし。
関東	特記事項なし。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の進行に支障はなかったが、発表時、発表時間を大幅にオーバーした班があったため、時間経過の3鈴目を加えることを検討する。 ・バスに乗車する際は長(山)靴をビニール袋等に入れ乗車する旨を現地実習日の朝に伝えたため、ホテルから山靴で来てしまった受講生がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日目の終了時の事務連絡について、局研修担当官と運営補助者間で連絡内容および連絡タイミングが共有できておらず、ふりかえりの時間に両者から連絡することとなったため、内容、タイミングを事前に確認の上進める必要がある。
中部	特記事項なし。	<ul style="list-style-type: none"> ・現地実習日が雨天だったことから、雨天用のパネル写真(採材研修用)を用意していたが、写真には採材の目安に 	特記事項なし。

		<p>なるスケールが入ってなかったことや傷の判断が難しかったため、採材の目安になるスケールを入れる等写真の撮り方を工夫することが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検討シートの雨天用がなかったことで、分かりづらかったのではないか。 	
近畿 中国	<ul style="list-style-type: none"> ・現地検討後に各班で討議をする時間があったが、班ごとの意見を受講生全体で共有する時間が必要だったのではないかとの意見があり、新たに、討議結果(発表のとりまとめ方針)を各班から発表して、受講生全員で共有する時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・討議や発表とりまとめの時間が足りないとの意見があったことから、討議・発表のテーマを1つに絞ることも一案である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿中国ブロックには、14府県が含まれるが、今回の受講生(森林管理局職員を除く)は8府県からに留まっており、6府県からは1名も参加がなかったことから、各府県への研修受講の働きかけを強化する。
四国	<ul style="list-style-type: none"> ・“民国連携”といったテーマは幅が広く、最終日の発表・質疑応答の時には受講生から、その中でも課題を絞って提示してほしいという意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日目は、班内でふりかえりの共有を実施しなかったため、意見交換の時間が少なかったが、2日目から対応する等、研修中に改善を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会場が、研修参加者の人数に対して狭かったことから、講師・スタッフの動線を確保できるよう、余裕をもった会場の検討が必要。
九州	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりの時間が短く、シートに記入するだけで終わり、また、3日目「発表・意見交換」の時間が短かったことから、カリキュラム構成、時間配分の検討の必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の班で、経験の浅い受講生が見聞きするだけになっていた場面があった。 ・外部講師が作成(準備)した講義資料が多く、時間内で十分説明できなかったことから、資料作成の精査とポイントを絞ることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の成果(物)として映像も記録した方が良いのではという意見があり、3日目から対応したが、次年度は初日から記録する方向で検討する。

5. 実践研修の課題の整理

本研修は森林管理局が主体となって企画・運営したが、雨天により現地演習が変更になった中部ブロックを除き、各ブロックともほぼカリキュラムどおりに研修を実施することができた。

受講生の技術者育成研修及び准フォレスター研修受講、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講状況の内訳は各ブロック様々だが、全体として、准フォレスター23名(20%)、技術者育成研修修了者21名(19%)、森林総合監理士育成研修修了者29名(26%)、森林総合監理士関連の研修未受講者40名(35%)だった(1名アンケート無回答)。

昨年度からテーマ及び講師を変更したのは、北海道、東北、中部、近畿中国、四国で、全ブロック2泊3日で実施した。

本研修は、森林総合監理士等の継続教育を目的として、森林総合監理士、都道府県職員、市町村職員、森林管理局職員、民間職員等を対象に実施した。受講生の平均年齢は昨年とほぼ同じであった(H28:43.1歳→H29:44歳)。

以下、受講生アンケート、各ブロックの運営改善報告書から、主な課題を抽出・整理した。

(1)ブロック別の課題

ブロック	アンケート結果を通じての課題	運営改善報告書を通じての課題
北海道	・「現地実習の時間がもう少し長いほうが良いと思った」等、現地踏査の時間不足の意見が寄せられた。	・現地実習の時間が限られていたことから、現地実習の時間を含め、カリキュラムの時間配分を検討する必要がある。
東北	・「研修内容の理解度」は5と4の回答が全ブロックを通して最も低かったが、「作業道の作設に係る業務経験がなかったため難しい部分もあった」等、受講生自身の知識不足の声が寄せられた。	・班ごとに同行するサポートスタッフが、実習内容に関して受講生にどこまでアドバイスするか差異が生じないように、サポート役間でアドバイスの内容等について共有するための打合せが必要である。
関東	・講義・検討時間・現地踏査の時間をもう少し長くしてほしいといった、時間不足に対する意見が寄せられた。	・次の日に向けての事務連絡において、事務連絡内容、連絡のタイミング、誰が連絡するのか、局研修担当官と運営補助者間が事前に確認の上進める必要がある。
中部	・「現地実習の時間を増やしてほしい」、「架線の設計時間が少し足りなかった」等、時間不足に対する意見が寄せられた。	・今年度の現地実習日が雨天だったことで現地実習の内容が変更になったが、雨天時用のパネルの内容(写真の撮り方)、検討シートの雨天用を用意するか等、雨天時用の準備物、内容について検討が必要である。
近畿中国	・「カリキュラム内容・時間の満足度」において5と4の回答が全ブロックを通して最も低く、「現地実習の時間がもう少しあればより良かった」等、時間不足に対する意見が寄せられた。	・現地検討後の討議は、各班で討議をする時間があったが、班ごとの意見を受講生全体で共有する時間がなかった。受講生全員で共有する時間が必要であることから、カリキュラムの時間配分等の見直しが必要である。

<p>四国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「業務への活用度」は5と4の回答が全ブロックを通して最も低かったが、「専門知識が少ないため、身につける必要があると感じた」等、受講生自身の知識不足の意見が寄せられた。 ・「日程的につめつめな感じがした」等、カリキュラム内容と時間のバランスに対する意見が寄せられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・“民国連携”といったテーマは幅が広く、受講生が戸惑う面もあったことから、課題を絞る等、演習時間の配分や進め方の検討が必要である。
<p>九州</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの全項目において高い評価だったが、「もう少し時間をかけたかった」等、時間不足に対する意見が寄せられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりの時間や発表・意見交換の時間が短かったことから、受講生同士で意見を交換する時間が不十分であったため、カリキュラム構成、時間配分の検討の必要がある。

(2)全体を通しての課題の整理(アンケート結果を通じて)

アンケートの評価は、技術者育成研修及び准フォレスター研修受講の有無、森林総合監理士育成研修(森林技術総合研修所)受講の有無以外は、全項目5段階評価で実施した。その結果、各ブロックで、「研修内容の理解度」、「業務への活用度」、「テーマ設定の満足度」は5と4の割合が47～100%を占め、「森林所有者などに説明する場面で活用できる」、「現在の仕事に直結しているのでよく理解できた」など肯定的なコメントが多く、おおむね高い評価となった。

研修テーマは、全ブロック、都道府県のニーズ・意見を踏まえ、森林管理局が工夫を凝らし設定したが、今後も地域の実情や成長産業化に向けた課題に対し、森林総合監理士等として、指導・助言などを行っていく上で実践的なテーマを検討することが重要である。

「カリキュラム内容・時間」に対する満足度は5と4の割合が47～83%とブロックによってバラつきがあった。例年あがる意見だが、「講義・現地踏査・検討時間が短い」などのコメントがほとんどのブロックで一定数見られ、テーマとカリキュラム内容に見合った時間配分が課題と言える。また、「研修の進行・運営」は5と4の割合が40～100%で「カリキュラム内容・時間に対する満足度」と同様、ブロックによってバラつきがあった。評価が低いブロックは、「日程的につめつめな感じがした」、「3日目の時間がタイトに感じた」等、日程とカリキュラム内容のバランスに対する指摘であったことから、限られた時間の中で詰め込みすぎにならないよう、カリキュラムや講義・演習の中で盛り込むべき内容を再検討し、現地実習や検討時間でのポイント等を的確に伝えることが必要であると考えられる。

(3)全体を通しての課題の整理(運営改善報告書を通じて)

森林管理局が主体となって運営したが、全体的にスムーズに進行された。全ブロック2泊3日の日程で実施したが、一部のブロックでは現地実習や演習等に時間不足があり、カリキュラム内容と時間の配分については検討が必要である。また、今年度、一部のブロックでは現地実習日が雨天になり現地実習地や内容が変更になったブロックがあったが、研修当日は悪天候の可能性もあり、悪天候のレベルによって臨機応変な対応が行えるよう、さまざまなことを想定して事前準備やタイムスケジュールを組むことが重要である。

ブロックごとに今後の課題内容に違いはあるが、問題点や改善策だけでなく、各ブロックの良かった点や工夫点も共有していくことが、円滑な運営につながっていくのではないかと。

6. 総括

(1)全体設計・テーマ・カリキュラム

テーマをブロックごとに地域の特性や現状及び都道府県のニーズ・意見を踏まえ設定したことで、各地域のタイムリーかつ今後森林総合監理士等の活動をしていくうえで重要な課題について、実際に現場で検討できるため、ブロックによって回答に若干のバラつきはあったものの、テーマ設定への満足度が高い評価を得ていることがアンケート結果からもうかがえた。今後も地域の実情や課題に即し、森林総合監理士等として指導・助言などを行っていく上で、実践的かつ業務で活用できるテーマを検討することが重要である。

他方、昨年度も課題にあがっていたカリキュラム内容に対しての時間不足についてだが、今年度も全ブロック2泊3日の日程で実施したものの、現地実習や演習等の時間不足を指摘する意見が一定数寄せられた。詰め込みすぎにならないよう、カリキュラム内容と時間配分については引き続き検討の必要がある。

H26～28年度は若手技術者を対象(森林総合監理士を除く)としていたが、今年度から森林総合監理士等の継続教育を目的としていることから、森林総合監理士も受講対象としたが、森林総合監理士の受講者数はブロックによってバラつきがあった(各ブロックの森林総合監理士の参加率：8～75%)。また、研修受講者総数も同様にブロックによってバラつきがあった(各ブロックの受講者数：8～23名)。受講生同士で多くの意見を交わすことでより新たな考えや気づきを得ることもでき、また、県・国有林等を越えた横のつながりも得ることができることから、本研修の立ち位置、受講生の選定、受講者数の確保、本研修の周知の仕方について検討が必要であると考えます。

(2)研修運営

本研修は、森林管理局が主体となってテーマやカリキュラムを企画、研修当日も森林管理局が主体となって進行し、運営補助者と連携して行った。森林管理局の負担は大きかったが、H26～28年度の実践研修・技術者育成研修の経験や知識が蓄積されていることから、細かいところでは運営面の改善が必要なものの、おおむねスムーズに運営できた。しかしながら、研修担当者の経験等により差異が生じることもあることから、後継者育成、引継ぎ等の工夫が重要であり、また、時間管理を含めた進行、役割分担等、事前確認の徹底も重要である。

運営経費等を考慮し、森林管理局・署・県の会議室、市の施設を使用したブロックがほとんどだったが、受講者数と関係者の参加者数により、運営を進行するうえで、動線を確保できない会場があったことから、参加人数に合った会場を選択する必要がある。

(3)おわりに

本研修は、主に森林総合監理士等の継続教育を目的として、現地検討及び討議を通じて現場レベルでの課題解決策を共有する研修を実施したが、今後、地域で森林総合監理士等の活動を行う上で必要な知識や業務に直結した研修テーマ・カリキュラム内容になっていたことで、ねらい通りの研修結果が得られたと言える。今後も各地域で直面している課題や森林総合監理士等に必要な知識・技術力を習得できる研修を実施していくことが必要である。また、本研修で得たことを受講生が各自の地域で実践していくことを期待したい。

